

PAUL GRIMAULT
ポール・グリモー

JACQUES PRÉVERT
ジャック・プレヴェール

スタジオジブリ洋画アニメーション提供作品

王と鳥

Le Roi et l'Oiseau

気をつけたまえ。

この国は今、罾だらけだからな。



高畑 勲・宮崎 駿をアニメーションへと誘ったアンデルセン原作の「王と鳥」
ジブリの原点、この夏、堂々劇場初公開!

監督:ポール・グリモー 脚本:ジャック・プレヴェール ポール・グリモー 台詞:ジャック・プレヴェール 音楽:ヴォイツェフ・キラール
原作:アンデルセン童話『羊飼いの娘と煙突掃除人』 原題:Le Roi et l'Oiseau 日本語字幕翻訳:高畑 勲
原簿:フランス大使館文化部 協力:ユニフランス東京、東京日仏学院 制作:スタジオジブリ・ディズニー・クロックワークス・日本テレビ 配給:クロックワークス
A Film by PAUL GRIMAULT Screenplay JACQUES PRÉVERT and PAUL GRIMAULT Dialogue JACQUES PRÉVERT Music WOJECIECH KILAR
a coproduction LES FILMS PAUL GRIMAULT • LES FILMS GIBÉ • ANTENNE 2 ©1980 LES FILMS PAUL GRIMAULT • STUDIOCANAL IMAGE • FRANCE 2 CINEMA

その部屋には、3枚の絵が飾られていた。

美しい羊飼いや娘と、煙突掃除の青年、

そして、孤独な王の肖像画。

娘と青年は恋をしていた。

その仲を引き裂こうとする王。

ふたりは絵の中から、逃げ出した。

一羽の鳥が道先案内人になり、

めまぐるしく続く階段を、どこまでも駆け降りてゆく。

しだいに明らかになる、宮殿の正体。

為政者もマスコミも、そして民衆も、

みんな一緒くたになつて天高くそびえる高層宮殿は、

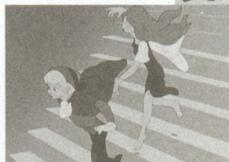
世界の支配構造そのものだった！

気をつけたまえ。この国は今、畏だらけだからな。

高畑勲・宮崎駿をアニメーションへと誘った

アンデルセン原作の「王と鳥」。

ジブリの原点、この夏、堂々劇場初公開！



先見的で、きわめて今日的

日本語字幕翻訳 | 高畑 勲

絵から人物が抜けだして現実を生きはじめる、面白い！学生時代、私はこの『王と鳥』の前身である『やぶにらみの暴君』という作品に夢中になった。もしこれを見なかったら、漫画映画の道に進むなどということは思いもしなかっただろう。

洗練された色彩と絶妙の遠近法、それが生み出す不思議な空間の魅力、奇想天外なアイデアの連鎖、人物の見事な性格描写、世界の強烈な垂直性、独特のユーモア。この映画は当時の既成観念をはるかに超えて、驚くべき斬新さでアニメーション映画の可能性を教えてくれた。

夢中になったのは、表現が素晴らしかったからだけではない。奇想天外なアイデアやイメージが、ただの奇想でもギャグでもなく、その裏に、現代史の重く冷厳な事実をひとつひとつ隠していることに気づいたからだ。

これは、単に独裁や抑圧からの解放をうたいあげるだけの古びた革命ファンタジーではない。一見矛盾や荒唐無稽に思える細部にこそ、じつは二十世紀が経験してきた「歴史」と「人間」の悲惨な真実が秘められている。そして作者は、次世代の私たちに、それをよくわきまえてこの世の「畏」に気をつける、と警告しているのだ。そうでなければ、どうして作者は第二次世界大戦直後に構想された『やぶにらみの暴君』を、わざわざ1970年代に『王と鳥』として蘇らせる必要があっただろう。

主人公のひとり、自由の象徴であるべき鳥でさえ、窮地に陥ればライオンたちを詭弁で扇動して立ち上がらせることも辞さない。そして蜂起したライオンたちが下層市街を通過すると、人々は「鳥たち万歳！」と歓呼する。勤善懲惡による素直な感動を期待しているヤワな私たちは冷水を浴びせかけられて、政治のリアルな冷厳さを思い起こさずに

はいない。しかし同時に私たちは知らされる。窓からそれを見ていた老女が、首を振り振り「鳥つてものがこんなものだとは思ってもいなかったよ」とその現実を見抜いていることも。しかもこれらをすべて軽々とユーモラスに扱う。

強烈なメッセージを込めたラストシーンは別として、驚くべきは、三十年後の『王と鳥』でも基本的な思想に何一つ変更がないことだ。『やぶにらみの暴君』の優れたショットのほとんどが『王と鳥』にもそのまま残っている。1950年以前に発していた警告がいまなお通用するとは、なんと悲しいことだろう。

私は寄り目の王の中に、孤独で甘やかされた自己中心的な私たち現代人の似姿を見る。ロボットによって倒壊した高層都市の廢墟に、私自身逃げまどった空襲による一面の焼野原や、9.11の惨劇を重ね合わせ。そしてその意味を問う。

作者の詩人的直感が喝破した「支配構造の垂直性」がますます強まっている現在、そのどこかに組み込まれている私たちがその現実にも無自覚であれば、暴走ロボットにいつ見舞われても不思議はないし、都市的なるものが崩壊したときその下敷きになるのは私たち自身だ。

少なくとも私にとって、『王と鳥』は、繰返し参照するに値する、先見的できわめて今日的な作品なのである。



1980年 | フランス | 187分 | スタンダード | ドルビー-SR
原題: Le Roi et l'Oiseau | デジタルリマスター版

www.ghibli.jp/outotori/

7.29(土)よりジブリの原点・劇場初公開!

劇場前売鑑賞券・オフィシャルHPより好評発売中! ~7月28日(金)まで

ポール・グリモー監督 短編作品 特別上映決定!!

渋谷区道玄坂1-18 フジビル37-B1

シネマ・アンジェリカ

TEL:03-5459-0581 <http://www.gojyu.com/>

11:00 | 13:10 | 15:20 | 17:30 | 19:40

■渋谷マークシティ4Fを道玄坂上方面へ進みラジオ局(渋谷FM)の裏手
■道玄坂を上り道玄坂上交差前交差点を左折、酒屋(酒井屋)を左折。■井の頭線渋谷駅西口下車、マークシティ沿い北上。

